



第68回 西日本
読書感想画
コンクール

優秀作品集

(総評・作品評) 西日本読書感想画コンクール審査員長 松久 公嗣氏 (画家、福岡教育大学教授)



主 催 / 九州・山口各県学校図書館協議会 西日本新聞社

後 援 / 文部科学省 九州・山口各県教育委員会 公益社団法人全国学校図書館協議会 福岡市教育委員会



予想できない世界を想像し、 未来を創造するために

審査委員長 松久 公嗣氏（画家・福岡教育大学教授）

「今年度も子どもたちの豊かな感性と創造性が伝わってきました。読書体験を絵で表現する活動は、物語への深い理解を促すと同時に、創造力と自己表現力を育む重要な学びの場です。美術教育の研究でも、このような活動が情緒や批判的思考の発達に寄与することが示されています。本コンクールを通じて、子どもたちの個性が存分に発揮されたことに感謝し、今後もさらなる成長を遂げてほしいと願っています。」

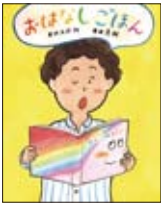
上記文章は、『ChatGPT』アプリで「読書感想画の審査員として〇〇・△△な視点を加えて総評の原案を作成してください」と指示して数秒で作られたものです。AIの進化は私が読んだ物語の世界を越えようとしています。

では、予想できない未来において私たち人間がすべきことは何でしょうか？ 現実にある教育問題について、その解決策をAIに依頼しても、「数日時間をください」と返答があり、数日後にありきたりの答えが返ってきました。AIにも解決できない問題は山ほどあるようです。

AIの総評はまんざらではありませんが、「読書感想画」は問題発見・解決能力を育む手助けをし、未来の予想できない課題に取り組む力を養う一歩となります。これからも感動体験を大切に、子どもたちがその力を伸ばしていけるよう、私たち大人も努力を惜しまないことが大切だと感じます。

指定図書一覧

小学校低学年 1・2年の部



おはなし ごほん

【あかね書房】



アマガエルのうた

【アリス館】



うみのおと

【教育画劇】



かずさんの手

【小峰書店】



いえ
あるひせんそうがはじまった

【汐文社】



さかさまがっこう

【文溪堂】

小学校中学年 3・4年の部



わたしのあくび
みなかった?

【絵本塾出版】



時間をやく
パン屋さん

【金の星社】



猫丸のひみつ
神社

【国土社】



あたしデイズ

【新日本出版社】



先生、感想文、
書けません!

【童心社】



ちいさなしまの
だいもんだい

【光村教育図書】

小学校高学年 5・6年の部



ぼくはおじいちゃんと
戦争した

【あすなる書房】



黄色い竜

【徳間書店】



暗やみに能面ひっそり

【BL出版】



パフィン島の灯台守

【評論社】



そのころ地球では...
時間と宇宙を旅して
みつけるぼくたちのいばしょ

【ほるぶ出版】



ニワシドリの
ひみつをもとめて
ものづくりする鳥の
ふしぎをさぐる旅

【理論社】

中学校の部



カムイの大地
北海道と松浦武四郎

【岩崎書店】



杉森くんを
殺すには

【くもん出版】



きみの話を
聞かせてくれよ

【フレーベル館】

※高等学校の指定図書はありません

<最優秀>(小学校低学年の部)「しあわせのうた」宮崎県 小林市立南小学校 1年 平川 想
(書名『アマガエルのうた』 作・谷口智則/アリス館)

【作画の動機】 アマガエルくんのうたは、しあわせをはこぶうたでした。さいごにもりのなかまとうたっているばめんです。にじやおんぶをかいて、たのしくうたっているようすをかきました。

【評】 そうさんは、雨の日はすきですか？ 雨の日はそとであそべないし、空もくらいです。でも、雨はカエルの歌とおなじように、大地や心をうるおしてくれます。心がうるおると、みんなハッピーなきぶんになります。そうさんは、そんな幸せなきもちを、絵にあらわしてくれました。

森のなかまといっしょに歌っている、楽しさやうれしさが、歌や音としてきこえてくるようです。

生き生きとした草のみどり色や、あたたかいきもちのような赤い色が、絵をみる人の目にとびこんできて、いつまでもきこくや心にのこります。

カエルのかおやかからだ、ながいペロにもいろいろなまようがあつて、ことばや音のようにかんじました。



<最優秀>(小学校中学年の部)「空飛ぶライオンとベネチアの街」熊本県 熊本市立池田小学校 4年 中村 仁映
(書名『ベネチアと金のライオン(マジックツリーハウス19)』 作・メアリー・ポーブ・オズボーン/KADOKAWA)

【作画の動機】 この絵は、ジャックとアニーがまほうで石のライオンを動けるようにして海の神様のネプチューンに会いに行こうとしている所をかきました。工夫した所は、ライオンの体と海です。ライオンの体はなるべくカラフルに見えるようにぬりました。海は、きれいに見えるようにいろんな色をにじませていきました。大変だったことは、細かい所をはみ出さないようにしていねいにぬったことです。

【評】 イタリアでは、ベネチア以外の街でもライオンや羽のはえたライオンの石像がかざられています。きみあきさんはイタリアに行ったことはあるでしょうか？かざられたライオンの石像を見ると、本当に動きだしそうだと感じることでしよう。

行ったことがなくても、主人公といっしょに本の世界を旅することができるのが、本の魅力ですね。

この絵の魅力は、きみあきさんの文にもあるように、カラフルなライオンの体と、空や海の色のはりやかさです。本の表紙やさし絵をヒントにしながら、きみあきさんだけの世界を作ることができました。12時をさす時計台や特大ネズミにも思いをこめて、ていねいに色をぬりかざねているところもすてきです。



<最優秀> (小学校高学年の部) 「きもだめしに能面」大分県 大分大学教育学部附属小学校 5年 竹内 愛唯
(書名『暗やみに能面ひっそり』 作・佐藤まどか/BL出版)

【作画の動機】 私が描いた場面は、きもだめしの場面です。その理由は、夜に宗太が、能面が並んでいるおじいちゃんの作業場におそろる行っている場面が印象に残ったからです。宗太が夜に見たであろう能面を想像して描きました。

能面のはんにやが半分蛇のように感じたから、蛇を描きました。工夫したところは色々な模様を描いて、怖さが伝わるように口や眉毛を「にっ」と笑っているように描いたことです。

【評】 まゆさんの絵は、今回のコンクールでも印象に残りました。黒く太い線で描かれた形は、中学校で学ぶデザイン的な構成としても効果的で、能面の特徴や模様の色分けも、魅力的に表現されています。とてもおもしろな昔話絵本のワンシーンのようです。

日本の伝統的な模様や独自の色彩が合わさって、きもだめしの怖さを個人的に表すことができましたね。よく見ると能面を彫る刀やカンテラもあって、印象に残ったものをうまく組み合わせて、本の世界を表現してくれています。

本の作者である佐藤まどかさんは、この本を通して「匠」の世界を紹介してくれていますが、まゆさんは将来、どんな匠になってみたいと思いますか？



【指定図書の一部】

<優秀> 「よるのたのしいがっこう」沖縄県 うるま市立城前小学校 1年 幸喜 蒼
(書名『さかさまがっこう』 作・菊田澄子/文溪堂)

【作画の動機】 ぼくは、がっこうのじかんがさかさまになって、よるのががっこうであそんでいるところをかきました。べんぎょうするところをゆうえんちみたいにあそべるとたのしいとおもったからです。

【評】 そらさんは、この本のおはなしに、あたらしいぼめんを想像して絵にあらわしてくれました。時間はさかさまになって夜になり、きょうしつはゆうえんちになりました。自分で想像をふくらませると、絵に描きたい世界も、どんどん広がっていきますね。

ひとつひとつの形や色に、どんなものがたりがあるのか、聞いてみたいなあ、、、と感じる絵になっています。

本のなかのだいくんは、もとの世界がいいと思って、じゅもんをとなえてもどしてしまいましたが、そらさんはどうしますか？

もっとたくさんの「さかさまな世界」をつくって、いろいろな色や形であらわしてみたら、もどりがなくなるかもしれませんね。



<優秀> 「楽しくうたえがおのかえる」福岡県 志免町立志免西小学校 2年 中村 花
(書名『アマガエルのうた』 作・谷口智則/アリス館)

【作画の動機】 わたしは、かえるが、くじらにのって、うたっている場めんをかきました。一ばんががんばったところは、からだや顔の色です。

たくさんこすって、少しいたかったですが、きれいな色になってうれしかったです。わたしが、読書かんそう画をして、思ったことは、一年生の時は、あまりじょうずにはかけなかったけれど、こんかいの絵は、とても、いいかんじで、いい絵になりました。

【評】 このコンクールでは絵のうらに、【作画の動機】という文を書いてももらっています。はなさんは、「こんかいはいいいかんじになった」と書いてくれています。この「いい感じ」は、いたいのをがまんして、クレヨンをごすってきれいな色ができたことですね。

じぶんの絵を思いかえしながら、こんな感じにしてみたい！と思って描くことは、とても大切なことです。とてもがんばったことが、いろいろな人にも伝わると、とってもうれしくなりますね。

じつは、はなさんの絵をみるひとも、同じように幸せなきぶんになっているんですよ。いつも同じように伝わるかどうかはわかりませんが、いっぱい絵を描いてためしてみてください。



<優秀> 「とびだすばけねこ」長崎県 雲仙市立多比良小学校 3年 江川 翔

(書名『猫丸神社のひみつ』 作・西村友里/国土社)

【作画の動機】 一番工夫したところは、まわりをくらいふんいきにしたところです。大へんだったところは、ねこがとびついてきそうなところです。かこうと思った理由は、いっかい読んでみて、ねこが中しんにたっていて、ねこがなにをやるかふしぎで読んでいたらそのねこはばけねこだったから、いいなと思ってねこまるじんじゃをえらびました。

【評】 絵の「ばけねこ」がかわいく思えるのは、こまっている人をたすけてくれる「猫丸様」だからでしょうか。私の家にも白い猫が2匹いますが、尾の先は黒くないので、猫丸様ではないようです。いつも心をいやしてくれるので、猫丸様のように話しかけてくれないかワクワクしています。しょうさんの絵のねこは、飛びついてきたあとに、何か話してくれそうですね。

色紙の上から色をぬって、夜の暗い感じが良くできていますが、ねこがいきいきと描かれているところが、一番のみりよくですね。

しょうさんは、何かがんばつてのりこえたいと思うことはありますか？これからも本を読んだしょうさんの思いや願いをこめて、いきいきとした絵を描いてください。



<優秀> 「猫丸神社のひみつとは？」鹿児島県 鹿児島市立玉江小学校 4年 福井 二郎

(書名『猫丸神社のひみつ』 作・西村友里/国土社)

【作画の動機】 ぼくが、この本で感動したのは、自分の目を信じるということです。人の悪いうわさや考えを聞いたからといって、決めつけるのは、もうやめようと思いました。神主のおじさんが語ってくれたように、自分の目の前の人の思いにふれて、自分の目で見て、自分の考えは決めたいです。そして、この絵は、猫丸神社の神様が猫になって現れる絵を不思議な感じで表現したかったので、たくさんのおわい色と美しい桜、猫の足あとをつけました。線をいかし、色をつけました。

【評】 じろうさんは、この本の絵を、大きな紙にまとめてくれました。映画のダイジェストをみているように、この絵をゆつくりと、すみずみまでみただけで、本の世界がよみがえってきます。

あるマンガ家は、「絵の上達はまねることから始めましょう」と話されていました。じろうさんの絵は、本の絵の良さをまねながら、不思議な淡い色でうめつくされていて、じろうさんの世界として表現されているところが良いですね。

この本を読んで、「自分の目を信じる」と思った決意が、太くしっかりとした線から伝わってきます。いろいろな場面が桜の花びらのように散りばめられていますが、線や色のつながりが、うまくまとめてくれています。



<優秀> 「パフィンのお礼」福岡県 新宮町立新宮北小学校 5年 青木 上総

(書名『パフィン島の灯台守』 作・マイケル・モーパゴ/評論社)

【作画の動機】 レンガのまようを点々で表したり、レンガの色を三色で表したりするのが大変でした。兵隊の服の色もぬるのは大変でした。

パフィンがたくさん来て灯台の周りに集まるのが、パフィンがアランやベンじいさんのことを覚えていておれいに来たみたいで感動しました。一番大きいパフィンが足のけがをして、アランたちが足の手当てをしたくれたパフィンです。とても感動する本でした。

【評】 この絵には、独特の立体感と奥行きがあります。灯台や兵隊のまわりに表現されている黒色の色使いがあることで、浮かだして見えるのが面白いですね。

大変だったと感想で書かれていますが、絵の中のすみからすみまで、ていねいに色や線で描かれていて、かずさんがこの絵にこめた思いや熱意がしっかりと伝わってきました。

かずさんが描いたこの絵は、これから多くの街の展覧会で展示されて、色々な人に感動を与えてくれることでしょう。かずさんの知らないところで、この本の主人公のように、1枚の絵と運命的な出会いをする人がいるかもしれません。これからも本や絵との出会いを大切にしたいですね。



<優秀> 「本当は」長崎県 佐世保市立大塔小学校 6年 濱田 椿

(書名『ぼくはおじいちゃんと戦争した』 作・ロバート・K・スミス/あすなる書房)

【作画の動機】 私はこの本を読んだ時こういう絵を描こうと決めていました。人間の目のおくゆきやグラデーショ雲の色や人のかげ物のかげなどこまかく真剣に描きました。手の形や表情すべてを大切にしました。苦労したことは影や光がかさなる時、光り具合と影具合どうやって表現したらいいか悩みました。工夫したところはデザインであり妻を亡くしたおじいさんを見守るようにおじいさんの妻の目を美しく描きました。

【評】 今日もどこかで戦争が続けられています。この本の中の戦争は、部屋をめぐるおじいちゃんと孫の戦争ですが、本当の戦争と重ねて話すおじいちゃんの言葉は、どのようにひびいているのでしょうか？

つばきさんの絵でも、「痛みをともなう戦争」を象徴する場面が大きく描かれています。物語では、ユーモアを交えた表現もされていますが、つばきさんは、戦争の悲しいところをしっかりと表現することに挑戦してくれました。そして、つばきさんの思いは美しい瞳に表されていますね。

戦争をしている人たちはこの本を読んでどんなことを思うでしょう？つばきさんと同じように、感じたことを絵に表す気持ちを持ってもらえれば、みんな平和になるのに、、、。



【自由図書の部】

＜優秀＞ 「ドーナツ池の中「つかまるな、ザリガニくん!」」宮崎県 宮崎市立宮崎港小学校 1年 古島 有希
 (書名『ライギョのきゅうしょく』 作・阿部夏丸/講談社)

【作画の動機】 どおなついのなかには、いろいろなさかながいます。つよそうなぎりがにも、おおきな、なまずもたべられました。ちいさなさかなは、おおきなさかなのきゅうしょくに、なります。たなごは、かくれんぼして、おおきなさかなに、たべられないようにします。らいぎよとたなごは、なかくです。でもいつか、らいぎよは、たなごをたべます。そのせかいをかきました。てかいたくなるまで、くれよんでぬりました。いけのなかをかきました。

【評】 ものがたりのしゅやくは、ライギョとタナゴですが、ゆきさんの絵のしゅやくは、描かれているものすべてですね。みんな、食べたり食べられたり。それでドーナツ池ができています。

大きく描かれたナマズがザリガニを食べているところを大きく描いて、とてもはくりよくがあります。食べられてしまうしゅんかんまで、ナマズもザリガニも生き生きとした線や色で、絵のせかいで元気にうごいています。絵のすみっこには、小さなたまごが、いろいろな色でぬられています。いっぱい食べられても、いっぱいたまごがあれば、だいじょうぶかもしれませんね。

みなさんの明日のきゅうしょくもたのしみですね。



＜優秀＞ 「みんなで力を合わせておにたいじ!」長崎県 長崎市立西城山小学校 2年 浦川 愛実
 (書名『ももたろう』 作・平田昭吾/ポプラ社)

【作画の動機】 りびとをくるしめているわるいおにをたいじしにおにがしまに行つたももたろうはゆう気があつてすごいと思いました。行くと中で犬とサルとキジに出あい、みんなで力をあわせてつよいおにをたいじできてよかったです。

はみ出すくらいに大きくかいてこわいおにをあらわしました。

すこしずつ色をかえておにのはくりよくなるようにがんばりました。

【評】 赤色や黄色、黒色のくみあわせは、どんなところで見ることができのでしょうか? ハチやドクヘビ、工事中のかんばんなど、きげんな生きものや、あぶないところにつかわれる、よく目立つ色のくみあわせですね。きつと、鬼もこわくてきげんだから、めだつ色なのかもしれません。

あみさんは、そういうめだつ色をつかって、とつともめだつ絵を描いてくれました。しんさのときにも、一番はやく目についたさくひんです。

この絵のみりよくは、はでな色づかいだけでなく、いろいろな黒色をつかひこなしているところですね。はいけいの黒い色に白い色をかきあえているのも、絵にはくりよくをあたえていますね。



＜優秀＞ 「りゅうたいじ」熊本県 熊本市立託麻北小学校 3年 長野 杏
 (書名『二分間の冒険』 作・岡田淳/偕成社)

【作画の動機】 この本を読んで、自分が一番たしかなものだという事が分かって、自分を大事にすきていたと思います。

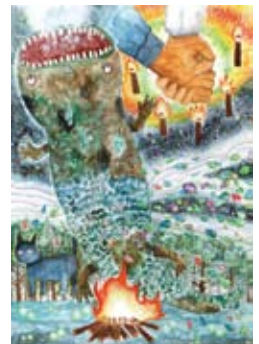
りゅうがみんなの力でたおされて、うろこがおちる場面がいんしょうで、たいまつや、たき火や、夜も心にのこつたのでこんな絵にしました。

絵のぐをばかしたり、細かく作業するのが大へんととても時間がかかったけど、がんばりました。

【評】 絵は不思議です。ことばや声も無いのに、そこには物語を感じるすることができます。物語は不思議です。色や形が無いのに、そこに世界を思い浮かべることができます。

あんさんの絵は不思議です。たった1枚の紙なのに、そこに物語のおはなしやことばを、いっしょにたどることが出来ます。はがれていくうろこの意味が分かっているから、こんなにみりよくてきな色をつけたのですね。

この絵には、いろいろな時間がながれていて、短いようでもあり、長いようでもあります。文字は無くても、この絵をみるだけで、本の世界と同じようなイメージを、みんなでいっしょに思い浮かべることができるなんて、とつとも不思議ですが、たしかなことです。



＜優秀＞ 「りゅうがどこでもでてくる」福岡県 宇美町立宇美小学校 4年 松村 香凜
 (書名『十二支のはじまり』 作・岩崎京子/教育画劇)

【作画の動機】 主役がりゅうで、わき役がうしとねずみとねこで目をいれたらいいかんじになりました。色はカラフルにしました。くふうしたことは、主役を大きくして家はバラバラにしました。

りゅうをわざとコピーして家とかもわざとコピーしていろいろなところにはりました。まわりはわざとこんいろでうすくしたりこやくしたりしました。

【評】 かりんさんは、とつともユニークな発想で、この絵をしあげてくれました。りゅうや家やうしをいっぱいコピーして、いろいろな色でぬって、はって、不思議な絵になりました。

中学校に入ると、デザインという美術の勉強のなかで、同じ形をくりかえす技を教わっています。絵のなかに音楽のようなリズムや統一感をだすことができますが、かりんさんは、そういう技を習得できたみたいです。

そういえば、十二支も12年たつと、またくりかえしますね。十二支は、これから何度も何度もくりかえしますが、かりんさんは、どんどん、どんどん成長していきますね。これからも、いろいろな技を習得して、成長した絵をいっぱい見せてください。



<優秀> 「生命は石に還る」山口県 防府市立華浦小学校 5年 國徳 陸
(書名『ひかる石のおはなし』 作・小手鞠い／あかね書房)

〔作画の動機〕 ぼくがこの本を読んで心に残ったのは、今この世にある石が、大昔は生命だったかもしれないということ。主人公の楓が拾った光る石も、もとは木や植物、動物の骨だったかもしれないと思うと、すごく不思議な気持ちになりました。石は地球の命なんだということ、この絵に描きました。きょうりゅうや植物などを、緑色だけで色のこざを変えて描くのが大変でした。コンパスの針を使って、星や銀河を表すところも工夫をしました。

〔評〕 昔から、人は石の魅力にとりつかれてきました。宝石や化石だけでなく、巨大な石を神さまとしてうやまうこともありますね。

りくさんが言うように、「地球の命」という表現もとても、ぴったりです。

りくさんは、物語の緑の石の色を想像して、いろいろな緑の色を調合して描いてくれています。何十色という緑色は、この絵の中で、細胞のように個性豊かにうごめいていますね。長い歴史を表す時計の色は、色のわ(色相環)の補色という色になっていて、緑色をより鮮やかに感じさせる効果が増えています。

コンパスの針で描いた星々は、お母さんとの思い出のように、コツコツと積み重ねられて銀河となり、とても美しく調和しています。



<優秀> 「空に広がる海の世界」福岡県 篠栗町立篠栗小学校 6年 橋本 操
(書名『まほうの自由研究』 作・如月かずさ／小峰書店)

〔作画の動機〕 心に残ったことは、全然実らないトマトの苗にトマトジュースをかけたらものすごく大きくなってびっくりしました。私はこの本を読んで海を自由研究したらどうなるのかな。と不思議に思い、海の世界をかきました。絵をかく時に工夫したことは、くじらの色をたくさん色を使って重ねてぬったり、目立たせたいところにクレヨンでなぞったり、工夫しました。また、あわを使って海のなみとかを表現する工夫をしました。

〔評〕 みさおさんの絵には、海の雰囲気を高める泡の模様が画面いっぱいに広がっている。色シャボンの技法は、発想を広げるきっかけにもなる楽しい活動ですが、色シャボンが美しいので、その美しさに負けないくらい、絵を描かないと色シャボンの絵に終わってしまいます。

みさおさんは、本の物語から自分だけの世界を発想して、その世界を表すために、何回も絵の具やクレヨンを重ねて、色シャボンの魅力を生かした絵になるまで育てることができました。

題名にもあるように、空のような、海のような、幻想的な世界が広がっていて、絵の世界が、どんどん外に出てきそうな感じがするような空間の広がりまで感じます。



＜最優秀＞ 「誰にも届かない心の叫び」 佐賀県 佐賀市立城北中学校 3年 内田 ひなの
 (書名『52ヘルツのクジラたち』 作・町田そのこ/中央公論新社)

【作画の動機】 私がこの作画を描こうと思った動機は、主人公キナコの長年にわたる心の内にひめた誰にも言えない悩みを一人で抱え込んでいる様と、52ヘルツのクジラという世界で一番孤独な動物、2つの話を合わせたいと考え描きました。特にこの絵を描く上で気に入っている所は肌です。特に光の反映が良く当たっている場所ではパステルカラー調の色を多く使用しているため独特の肌感になり、とても気に入っているかしょの一つです。



【評】 一昨年のコンクールでも『52ヘルツのくじらたち』をモチーフに、高校生の作品が受賞しています。この本は読みこむほどに考えさせられるメッセージ性の強い作品です。ひなのさんは高校生とは異なる視点で物語を解釈し、自分だけの感動を色や形を通して、絵を観る人に伝えようと苦心しています。

殻に閉じこもる心を表しながら、希望の光を思わせる色合いで統一感があり、陽を透かして見える波はゆらゆらと、泡はブクブクと揺らめく動きを感じます。

補色の色を巧みに使い分けて描いていて、印象派のような美しい色彩を感じさせます。海の中の神秘的な光の演出が効果的で、暗く沈みがちな物語の展開に、希望を見つけさせそうな予感を秘めています。

【指定図書の一部】

＜優秀＞ 「逸走」 佐賀県 佐賀市立城東中学校 1年 永瀨 百恵
 (書名『杉森くんを殺すには』 作・長谷川まりる/くもん出版)

【作画の動機】 私がこの絵を描いて感銘した点は二つあります。一つ目は、目をリアルに描いたことです。目は光や影を塗った後にグリザイユを使って少しずつ色を足していき、まつ毛を一本ずつ細く描いてリアルっぽさを出しました。二つ目は、階段の左右にある物語に関係するものです。これらは、主人公が印象に残ったものなので、主人公の複雑な感情と一緒にするため、多彩な色を使い、仕上げました。自分なりに仕上げられたためよかったですと思います。

【評】 絵画作品に人物が描かれている場合、人物はその絵の主役になる。人が描き、人が観るため、顔や手といった表情が出やすい部分の表現は重要になる。百恵さんは、目の表現を工夫して、この絵を描いた。逆十字の形に暗い色をおいて画面全体を安定させながら、目の中央を暗くして中心の人物に視線が集まるようにするなど、構図と色彩計画もうまく機能している。

最近ではデザインの処理をする作品も多いが、百恵さんは油彩画のような筆致でグイグイと描いている。絵の具は、白色が混ざることによって濁りに傾くことも多いが、この絵では、マットな仕上がりにして統一感があるままとりとなっている。



＜優秀＞ 「喪失の影に沈む日」 沖縄県 沖縄市立越來中学校 2年 真栄城 心音
 (書名『杉森くんを殺すには』 作・長谷川まりる/くもん出版)

【作画の動機】 私は、杉森くんの苦しみとヒロの葛藤、罪悪感を中心に杉森くんが絶望の湖に沈んでいく姿を描きました。本を読んで、杉森くんはすでに死んでいるのにそのうえで殺そうとするヒロが印象的でした。杉森くんの死の原因を花で表現しその花言葉の「絶望」「憎悪」「苦しみからの解放」を意識して描く花を選びました。また、杉森くんの頭上にあるパズルは、最後のシーンで、杉森くんへのヒロが感じた葬送の気持ちを表しています。

【評】 心音さんは水彩絵の具の特長をいかした絵画的表現と、マットな塗分けによるポスター的表現を融合して、魅力的な絵を完成させた。

湖の水紋の表現が印象的で、白の濃淡を使い分けて表現するなど、心憎い技法を駆使している。水紋だけでなく白のバリエーションが多く、白の中に無数の色を表現することで、画面に奥行きや流れを感じさせている。

今回は、同じ指定図書の作品が2点受賞した。同じ本を読んでも、そこから二次的に創造される絵画作品はこんなにも異なるということが、美術の特徴であり、社会的にも重要視される要素である。この本を読んだうえで、この二つの作品の相違を鑑賞すると、物語の魅力も深まるという体験を味わってほしい。



<優秀> 「命の宿る地」 山口県 柳井市立柳井西中学校 3年 木下 美優
(書名『カムイの大地 北海道と松浦武二郎』 作・泉田もと／岩崎書店)

【作画の動機】 主人公は北海道で様々な新しいことを経験し、その中で知った北海道という地の持つ生命力に驚きと喜びを抱いたのではないかと思います、全体的にカラフルに仕上げました。本文に主人公は手帳と筆を使い、よくメモを取っていた、とあったので手帳に北海道の形を描くような構図にしました。藤の花やハナナスの花等は本文中には出てきませんが、きっと主人公は北海道で見ていたのではと思います、描きました。

【評】 美優さんの作品と対峙すると、画面の眼がじつと鑑賞者に語りかけてくる。この眼は主人公のものであり、絵を描いた美優さんのものでもあるだろう。

本の表紙には、時代背景や北海道のイメージから、白と黒を基調とした絵が描かれているが、美優さんは生命力や喜びの表現として、鮮やかな色彩で謳いあげている。無彩色と有彩色の対比も鮮やかな色彩を強調する手段として成功しており、この対比は心の葛藤や苦難を乗り越えて辿りついた喜びにも置きかえて解釈することもできるだろう。

美優さんが「手帳」に興味を示したように、この絵には、物語の印象に残った場面をたどる旅が存在している。



【自由図書部】

<優秀> 「大会まであと3日！！」 大分県 玖珠町立くす星翔中学校 1年 樋口 美咲
(書名『世界で一番のねこ』 作・藤野恵美／アリス館)

【作画の動機】 このお話は主人公であるねこのエトワールが、大会で一番を獲りたくて、どうやら取れるのか、苦悩しながら奮闘し、成長してゆくお話です。

お話の世界の主人公と同じ様に、私も毎日、どうすれば自分の絵でこの世界を伝えられるのか。毎日絵と向き合っていて、エトワールの気持ちになって、一生懸命描きました。少しでも、この本の世界の魅力が伝えられて、見聞きしたことがない人達に、手に取ってもらえたら、嬉しいです。

【評】 美咲さんの絵は、今回の審査のなかで一番きれいだな、と印象に残った絵です。ねこのコンテストと同じように、審査基準の項目は色々ありますが、構図や色彩の配置、筆使いといった知識や技能の評価もあれば、物語の解釈の面白さや絵の表す内容の独創性など、発想や構想、表現の内容を評価する観点もあります。それらの内容を総合的に判断する、、、という点が、数だけで優勝者が決まるねずみとりコンテストとは異なる点です。

おじいさんが言うように、自分の進む道は自分で決めるしかありませんが、今回の受賞という結果は美咲さんの努力の結果の一つです。これからも、絵を描くことをもっと好きになって頑張ってください。



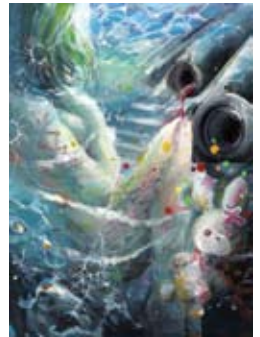
<優秀> 「追憶」 宮崎県 宮崎市立宮崎東中学校 2年 田崎 麻央
(書名『砂糖菓子の弾丸は撃ちぬけない』 作・桜庭一樹／富士見書房)

【作画の動機】 この本の、不穏で閉鎖的な空気感の中にある美しさをテーマに描きました。特にこだわった部分は配色で、何層にも絵の具を重ね主人公や藻屑の複雑な感情を表現しました。また、原色の明るい色を入れること、クレヨンを使ったりぬいぐるみを描いたりすることで、藻屑の幼さと「砂糖菓子の弾丸」を表しています。苦勞した点は、全体的に青や緑などの同系色を使ったので、遠くから見ても何を描いているか分かるよう光加減を微調整したところです。

【評】 麻央さんは昨年も優秀賞を受賞しているが、すぐには気が付かないほど作品の色合いや構成は変化している。しかし、2つの作品に共通するテーマ性や筆致があり、モチーフや画材等が変わっても、作品の根底に流れている痕跡が、麻央さんの個性として訴えかけてくる。

いわゆる絵画的なタッチで描かれるモチーフには意味があり、青春暗黒小説と評されるこの本の現代的リアリティを、寓意的かつ具象的に表現できている。物語に対する的確な理解と感動が無ければ、このような表現には到達しないだろう。

この作品は、本の帯のような役割も担っており、色や形でこの本のイメージをみる人に届けてくれる。



<優秀> 「運命の荒波」 宮崎県 都城市立五十市中学校 3年 永尾 千鶴
(書名『レ・ミゼラブル』 作・ビクトル・ユーゴー／講談社)

【作画の動機】 主人公の男が一人の神父によって前科人から聖人に至るまでの人生を描いた作品です。主人公は物語の中で何度も重大な決断を追られるシーンがあるのですが、誰かに影響されるわけでも何かを信じているわけでもなく、ただ自分だけを信じ自身が責任を負う事の恐怖に打ち勝つ覚悟が何よりも美しかったです。

この絵は私が特に印象に残ったシーンやキーアイテムを絵で表現しました。中心の月のデザインは私のお気に入りです。

【評】 鉛筆を用いた描写を中心に、固有色のみで簡潔に表現した作品である。ともすれば古臭い表現とも捉えられるだろうが、デッサンの的確さに支えられつつ、この本の世界観とマッチした表現として素直に鑑賞することができた。

左右対称の構図に放射状の色の帯を加えて構成されており、キリスト教絵画の祭壇画をみているようである。

今回の審査では、不朽の名作を全く異なった独創的な視点で捉える作品もいくつかあって驚かされたが、千鶴さんの作品のように、直球勝負で表す表現の普遍性にも気づかされることとなった。

卒業後は、デッサン力にさらに磨きをかけるとともに、様々な画材や技法にも挑戦して欲しい。



＜最優秀＞ 「救糸」 沖縄県 沖縄県立真和志高等学校 2年 鯉沼 孝庵
 (書名『蜘蛛の糸』 作・芥川龍之介/角川春樹事務所)

【作画の動機】 この本は、カンダタという大悪党が地獄に落とされたのだが、過去の善行により、救いの糸を一本垂らしてもらった物語です。僕は、カンダタに糸が垂らされた瞬間を描きました。下に潜む亡者どもの悲痛な顔と、それから逃れようとするカンダタ、対比的に描くために色を工夫しました。また地獄を表すために、ペンで、染み込んでくるような形で表しました。天を地獄と対比的になるよう、天を指す根このデザインにしました。救いの糸は輝くように描きました。

【評】 誰もが知る名作をこういう風に料理するとはアツパレだ。高校生となると描写力を生かした作品が目が引くが、ヨーロッパの銅版画作品にも似た細かな線描は、手の形に沿った方向で積み重ねられており、手や根この細部に魂を宿している。様々な画材を用いながら、散漫にならない画面の構成力も抜群で、この絵は芥川作品と同じように、グイッと心を掴み取る魅力を持している。アクリル系の絵の具やマチエールの直接的な強い表現が多いなか、孝庵さんの作品は細部にまで拘った描写力と大胆な構成が精神的な強さとなって訴えかけてくる。手や顔のまわりを白く描き残すことで、画材の質の違いを際立たせるなど、心憎い表現が成功している。

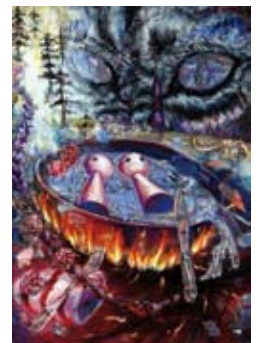


【自由図書の部】

＜優秀＞ 「いただきます。」 熊本県 熊本市立必由館高等学校 1年 松下 桃花
 (書名『注文の多い料理店』 作・宮沢賢治/KADOKAWA)

【作画の動機】 二人の狩人が森の店に入ることから始まる奇妙な物語に心がグッとつかまれました。猫の目が二人をどのように調理してやろうかというまがまがしさを表現しました。赤いヒモは狩人がかかっていた犬のもので。物語の重要なアイテムだと思い描きました。この作品の不思議な雰囲気色彩で表現しました。食に関する物を散りばめて、場面をドラマチックにしました。

【評】 1年生ながら、描写力を生かした表現が巧みである。作者の意図通りに、禍禍しい眼に魅入られた鑑賞者の視点は、調理される運命を待つ狩人や炎、流れ落ちるスープから猟犬の紐へとつながって、再び深淵の瞳に辿りつき循環する。構図と色彩の対比が美しく、筆のタッチが心の動きや場面の緊張感を高めている。高校で初めて出会った技法かもしれないが、マツな絵の具と艶やかなアクリル系メディウムの使い分けを楽しみながら、「描く」ことを楽しんでいる点が、残酷なシーンにもなり得るこの場面を、絵画として観る人を惹きつける作品に昇華していると感じた。



＜優秀＞ 「流浪の月」 熊本県 熊本県立御船高等学校 1年 山中 宝美
 (書名『流浪の月』 作・凧良ゆう/東京創元社)

【作画の動機】 小児性愛者の誘拐犯、被害者の少女、周囲の目にはこう見えているが、確かに2人はお互いを想っていました。そんな2人は引き裂かれ、再び出会う。あなたと共にいることを、世界中の誰もが反対し、批判する。心配するからこそ、誰も彼女の話を傾けることは無い。そんな中、男女は一つの答えを出し、2人で生きていくことを決意しました。綺麗で歪で異状、暗い内容をあえて明るい色で表現し、2人のこれまでの人生を現在使える能力で表現しました。

【評】 この絵の違和感は、人形のようなイラストのような少女の描写である。他の部分は絵画的な描写法で描かれているが、少し平面的に描かれた少女はアニメや漫画を想起させる。しばしば、絵の中の意図された違和感はその絵のテーマとなる。その違和感がそのまま違和感で終われば絵は破綻し、違和感がテーマとして融合されれば、個性的な絵として受け入れられる。山中さんは、デザイン的なカラフルな色使いと、同じくらい強い印象を持つ人物や魚との対比で、上手く融合することに成功した。歪で異常でありながら「綺麗」と表現するところは、山中さんが生きる現代において、美術が包括する多様性の象徴であると感じた。



<優秀> 「焔」熊本県 熊本信愛女学院高等学校 2年 陳内 悠羽

(書名『羅生門・鼻・芋粥』 作・芥川龍之介/KADOKAWA)

【作画の動機】 平安時代末期、季節は冬で一人の下人が羅生門の下で雨を見ている。下人は明日の暮らしがどうにもならない現状に盗人になるかどうか彷徨う。羅生門の上に上がり死体から毛を抜く老婆と会い自分自身で向きあい闇の夜に消えて行く話だ。私はこの本を読み芥川龍之介の生々しさを表現するために蛾を描いた。下人が老婆から着物を盗む着物の柄を細く表現し日本画のように美しく表現した。

【評】 陳内さんは、昨年の受賞作品からさらにレベルアップした作品を見せてくれた。先輩たちの作品の良さを取りつつ、独自の表現を模索して着実に芸術の高みを目指して歩んでいる。

白色の描写に薄く溶いた絵の具を重色することで、画面に独特の雰囲気と感情表現を融合している。

『羅生門』の時代性や内容に合わせて、日本の伝統色となる朱や緋色を効果的に使っている点も、物語の世界観を深めることに役立っている。これを機に、日本の色や諸国の色、その組み合わせからくるイメージについて深めるのも良いかもしれない。

着物の図案と同様に、隅々まで神経の行き届いた描写がなされており、とても好感の持てる作品となっている。



<優秀> 「mirage」山口県 山口県立防府西高等学校 2年 尾上 麗翔

(書名『生れ出づる悩み』 作・有島武郎/集英社)

【作画の動機】 この本は画家を志す青年が才能を持ちながらも家族のために働くしかない現実にもまれていく話です。私は、主人公があわい夢への期待を抱きながら数少ない休日にポロポロのスケッチブックを持って絵を描きに行く場がとても印象に残りました。この絵は、そんな主人公の悩みながらも日々を過ごす気持ちの変化をイメージして描きました。心の光となっている絵が、たとえ苦しい生活に飲み込まれそうになっても輝いて欲しいという願いを込めています。

【評】 有島の名著の時代性や地域の景色を反映してか、麗翔さんの絵には一種のレトロ感が漂っている。麗翔さんは「輝いてほしい」と願って絵に表しているが、才能がきらめく舞台は終焉の幕を閉じるかのようにも感じる。

そういった二面性を有している物語であるからこそ、小説家や画家が悩み、もがく姿や、有島の生涯を暗示するような舞台が表現されたのかもしれない。

麗翔さんには、物語の「君」と同様に類稀な絵の才能があるのは間違いないが、どのような未来を夢見て生きていくのだろうか。高校という青春時代を謳歌しながら、様々な可能性と感性を掘り深めてほしい。



<優秀> 「記憶」佐賀県 佐賀県立唐津東高等学校 3年 河上 来幸

(書名『潮騒(その日のまえに)』 作・重松清/文藝春秋)

【作画の動機】 主人公のコロコロ変わる心情をカラフルな色彩で表現したいと思いながら絵の具を重ねた。小学生時代の主人公はクラスの友達か海で溺れて亡くなった事実を忘れていた。忘れてしまっていたことへの罪悪感や遅くとも気持ちが届いたことへの喜びなど対極な心情がまざり合う様子を深い青から暖色へのグラデーションによって表現することが難しかった。顔をいくつも描くことで、心情の変化をより強く引き立てることが出来た。

【評】 この絵は、連作小説『その日のまえに』のなかの『潮騒』を題材に描かれている。「その日」とは愛する人が亡くなる日だが、誰にでも訪れる日といえるだろう。

来幸さんは、主人公の心情の変化をいくつかの表情や色彩で表現しつつ、夕刻から夜へと変化する海の色彩を見事に表現している。自由図書の審査では、物語の内容を知らないまま絵の魅力を審査することが多いが、中央下部に描かれた女性があざと気にしていた。本を読むことで、この女性の意味が分かったが、分かってからもう一度絵を見返すと、違ったイメージが重なることで、異なる感動が湧き出てくる。これは読書感想画の審査に関わることで感じた特徴であり、魅力だと感じている。



<優秀> 「時間旅行(タイムリープ)」熊本県 熊本県立御船高等学校 3年 佐方 菜々美

(書名『時をかける少女』 作・筒井康隆/鶴書房盛光社)

【作画の動機】 目が覚めると時間と記憶をめぐる奇妙な事件が次々と起こり始める。思春期の少女が持つタイムリープという能力を使って、様々な問題を解決していく。誰にでもある秘密や身近な人との関係を通して、「人生のかけがえのない時間」の意味を考えさせられる一冊。あまく切ない友情や何気ない日常を人物の表情や目線、模様や色の重なりで表現した。かけがえのない時間や思い出を表現するために、奥行きを感じさせるように大きく白の面を入れました。

【評】 佐方さんは昨年に引き続き連続の受賞となった。昨年も登場したお気に入りのモチーフを組み込んでいるが、今回は白い面とカラフルな面の対比で、時間や心情の奥行きを表している点が印象に残った。

まるい形のモチーフや浮遊する数字を構成することで、画面に動きを与えながらイメージを切り替える境界をつくる点が、佐方さんオリジナルの表現であり個性的といえる。

昨年の作品では、私が真似できないような色彩のハーモニーが主役となっていたが、今回は人物表現に挑戦し、この絵の主役となっている。丸い形に興味を持ち、構成されることで画面に動きが出ているが、異なる形や色の工夫が加わると、時間のような動きへと変化したかもしれない。



第 68 回 西日本読書感想画 コンクール入賞者

《最優秀・文部科学大臣賞》

(指定)	平川	想南	小 1年	宮崎
(自由)	中村	仁映池	田小 4年	熊本
(指定)	竹内	愛唯	大分大学教習部小 5年	大分
(自由)	内田	ひなの	城北中 3年	佐賀
(自由)	鯉沼	孝庵	真和志高 2年	沖繩

《優秀》 — 指定図書の一部 —

幸喜	蒼城	前小 1年	沖繩
中村	花志	免西小 2年	福岡
江川	翔多	比良小 3年	長崎
福井	二朗	玉江小 4年	鹿児島
青木	上総	新宮北小 5年	福岡
濱田	椿大	塔小 6年	長崎
永瀨	百恵	城東中 1年	佐賀
真栄	城心	越来中 2年	沖繩
木下	美優	柳井西中 3年	山口

《優秀》 — 自由図書の一部 —

古島	有愛	希実	宮崎港小 1年	宮崎
浦川	野杏	凍	西城山小 2年	長崎
長野	村香	陸	宇美小 3年	熊本
松國	徳本	操	華浦小 4年	福岡
橋樋	口美	咲	篠栗小 5年	山口
田崎	麻央	宮崎	くす星翔中 6年	大分
永尾	千鶴	必由	宮崎東中 1年	宮崎
松下	桃花	御船	五十市中 2年	宮崎
山中	宝美	熊信愛女学院	御船高 1年	熊本
陳尾	上麗	翔	防府西高 2年	山口
河上	来幸	唐津	唐津東高 3年	佐賀
佐方	菜々美	御船	御船高 3年	熊本

《優良》 — 指定図書の一部 —

有田	直正	大草野小 1年	佐賀
山口	心翔	北茂安小 1年	佐賀
野間	咲良	明和 小 2年	宮崎
山川	小百合	須木小 2年	宮崎
里	佑弥	桜原小 3年	福岡
錦田	絆愛	大塚小 3年	宮崎
門永	さくら	高松小 4年	熊本
瀬戸崎	莉桜	小林小 4年	宮崎
錦戸	謙斗	新宮北小 5年	福岡
村岡	龍馬	上郷小 5年	山口
奥野	蒼士	星鹿小 6年	長崎
高山	千愛	砂取小 6年	熊本
矢島	心香	杵築中 1年	大分
肝付	陽	串木野西中 1年	鹿児島
茅原	結優	愛宕中 2年	長崎
谷川	結衣	首里中 2年	沖繩
笈木	結花	八屋中 3年	福岡
上野		福石中 3年	長崎

《優良》 — 自由図書の一部 —

古賀	棕大	仲原小 1年	福岡
高瀬	航優	西吉富小 1年	福岡
渡邊	原凛	明治北小 2年	大分
宮原	帆史	国富小 2年	宮崎
松本	戸昂	土黒小 3年	長崎
城戸	池礼	田代小 3年	熊本
菊山	侑那	中央小 4年	佐賀
米山	楓子	江平小 4年	長崎
竹上	原楓	大里南小 5年	宮崎
関三	浦こはる	志免西小 5年	沖繩
田中	三浦	宮崎東小 6年	福岡
村崎	上垂	唐津東中 1年	佐賀
磯崎	一彩	武蔵ヶ丘中 1年	熊本
田邊	優衣	富田中 2年	大分
奥田	花音	土々呂中 2年	山口
松浦	早希	山吹大教習部小 3年	宮崎
濱田	乃航	城南高 1年	福岡
矢野	長恰	太宰府高 1年	福岡
村後	藤文	必由館高 1年	熊本
掛須	朱愛	芸術緑丘高 1年	大分
菅義	間涼	竹田高 2年	大分
原田	丸真	芸術緑丘高 2年	大分
浦丸	添眞	唐津東高 2年	大分
川山	恵麻	唐津東高 3年	佐賀
柳井	柚里	大津高 3年	熊本
		芸術緑丘高 3年	大分

《佳作》— 指定図書の一部 —

中本	弥	仲	原	小	1年	福岡
森	舞保乃	小	野	小	1年	福岡
高	仁兵	小	木	小	1年	佐賀
今	斗哉	小	佐世保	小	1年	長崎
近	藤希	星	鹿	小	1年	長崎
丸	井新	西	大村	小	1年	長崎
松	島悠	布	東	小	1年	宮崎
宮	島あすか	高	江	小	1年	沖繩
森	なつめ	高明	新	小	1年	山口
中	澄風	若	楠	小	2年	佐賀
松	咲希	北	鹿島	小	2年	佐賀
松	尾柚	松	高	小	2年	熊本
坂	本清	佐	志生	小	2年	大分
渡	邊咲	松	岡	小	2年	大分
鈴	木もな	屋	良	小	2年	沖繩
上	地夏	津	嘉山	小	2年	沖繩
伊	波侑	厚	狭	小	2年	山口
眞	鍋羽	大	殿	小	2年	山口
小	川詞	山	富	小	2年	山口
井	上玲	西	吉	小	3年	福岡
末	尾皇	福	石	小	3年	長崎
松	山彩	鏡	市	小	3年	熊本
森	山さくら	豊	府	小	3年	大分
詫	間圭	春	木川	小	3年	大分
菅	丸蓮	西	小林	小	3年	宮崎
徳	原さ	大	川	小	3年	宮崎
寺	藤田	川	中西	小	3年	山口
藤	谷山	佐	賀	小	3年	山口
谷	小島	宇	美	小	4年	福岡
小	池平	宇	美	小	4年	福岡
小	野琉	勢	門	小	4年	福岡
前	田光	東	原	小	4年	佐賀
一ノ	瀬帆	祇	園	小	4年	長崎
西	村島	早	岐	小	4年	長崎
田	島実	太	田郷	小	4年	熊本
尾	方添	太	田郷	小	4年	熊本
川	嘉敷	沖	縄	小	4年	沖繩
渡	丸紗	琴	芝	小	4年	山口
石	橋哲	田	代	小	5年	佐賀
石	梅田	飽	田南	小	5年	熊本
後	藤竜	横	瀬西	小	5年	大分
押	川寛	大	王	小	5年	宮崎
廣	澤尙	壺	屋	小	5年	沖繩
新	垣千	松	島	小	5年	沖繩
井	上陽	北	丘	小	5年	沖繩
銘	国莉	翔	南	小	5年	沖繩
栗	上田	西	城	小	5年	沖繩
上	坂口	大	島	小	5年	山口
牧	山空	志	免西	小	6年	福岡
		盈	科	小	6年	長崎

丸	井	詠	詩	西	大	小	6年	長	崎
藤	下	悠	惺	別	保	小	6年	大	分
国	吉	美	穂	光	洋	小	6年	沖	繩
池	宮	早	希	宮	城	小	6年	沖	繩
照	屋	有	生	宜	野	小	6年	沖	繩
阿	部	咲	佳	城	岳	小	6年	山	口
三	好	心	春	一	の	小	6年	山	口
手	島	星	加	深	川	小	6年	山	口
眞	崎	萌	生	城	東	中	1年	佐	賀
野	畑		葵	鍋	島	中	1年	佐	賀
高	原	颯	介	日	宇	中	1年	長	崎
森		心	陽	福	石	中	1年	長	崎
松	本	飛	空	第	一	中	1年	長	崎
浜	元	り	つ	東	風	中	1年	沖	繩
吉	田	音	巴	岩	国	中	1年	山	口
林		万	里	田	布	中	1年	山	口
山	本	侑	羽	田	布	中	1年	山	口
大	中	梨	愛	小	郡	中	1年	山	口
竹	内	楓	夏	八	屋	中	2年	福	岡
山	田	夏	蓮	城	北	中	2年	佐	賀
尾	崎	桃	香	大	野	中	2年	長	崎
友	寄	日	渚	福	石	中	2年	長	崎
高	須	心	菜	熊	本	中	2年	熊	本
甲	斐	心	望	合	志	中	2年	熊	本
柘	植	田	葵	麻	里	中	2年	山	口
原	田	中	優	岐	陽	中	2年	山	口
田	高	橋	実	萩	国	中	2年	山	口
張	安	永	詩	城	北	中	3年	佐	賀
坂	本	上	紗	大	野	中	3年	長	崎
田	藤	齊	智	熊	本	中	3年	熊	本
齊	溝	嘉	さくら	熊	本	中	3年	熊	本
嘉	那	上	朱	熊	本	中	3年	熊	本
上	地	由	実	熊	本	中	3年	大	分
西	谷	悠	乃	熊	本	中	3年	沖	繩
山	本	小	春	熊	本	中	3年	沖	繩

《佳作》— 自由図書の一部 —

吉	塚	翠	泉	小	1年	福岡
宗	煌	士	湯	小	1年	長崎
入	江	みひろ	八千	小	1年	熊本
松	村	由	八代	小	1年	熊本
薬	師	優	堅	小	1年	大分
加	藤	愛	須	小	1年	宮崎
角		絢	大明	小	1年	鹿児島
井	上	侑	麓	小	2年	佐賀
池	田	菜	第二	小	2年	長崎
土	田	芽	西合	小	2年	熊本
服	部	桜	北郷	小	2年	宮崎
平	田	結	山崎	小	2年	鹿児島

松門	村田	美彩	月愛	佐唐	賀津	西東	高	1年	佐賀
福增	井田	詩絢	乃音	唐必	津由	東館	高	1年	佐賀
中吉	島本	陽太	葉一	熊信	信愛	女学	高	1年	熊本
藤小	内山	太	奏矢	大分	上野	丘高	高	1年	大分
小手	嶋西	紗千	詠喜	大分	舞鶴	見高	高	1年	大分
大屋	宜口	結春	花く	別府	鶴見	邦高	高	1年	大分
井手	村本	さ綾	ら音	向太	陽府	高	高	2年	沖繩
山坂	藤木	ひよ	葵漣	唐高	津東	高	高	2年	佐賀
荒木	木田	望妃	那き	高必	森館	高	高	2年	熊本
柏喜	橋山	なつ	音々	必開	由邦	高	高	2年	熊本
赤岩	嶺川	文菜	藍樹	開開	邦高	高	高	2年	沖繩
佐沼	野原	良悠	美詩	徳佐	山賀	女子	高	3年	佐賀
萩野	村上	美桜	結芽	唐唐	津津	青翔	高	3年	佐賀
佐野	藤崎	西	本末	大八	津代	高	高	3年	熊本
江中	森谷	津吉	本照	熊信	信愛	女学	高	3年	熊本
北中	森谷	津吉	本照	大分	上野	丘高	高	3年	大分
中森	谷津	吉本	照稻	宜首	野東	高	高	3年	沖繩
森谷	津吉	本照	稻	豐見	城南	高	高	3年	沖繩
谷	谷	谷	谷	那	那	那	那	3年	沖繩

金藤	城井	乙新	王太	大阿	山知	小須	2年	沖山	繩口
嶽吉	田家	陸絢	斗菜	西土	須吉	富黒	2年	山福	岡崎
池藤	上戸	尊凜	真子	南横	黒瀨	西小	3年	長崎	崎崎
川藤	波直	來直	桃葵	境小	川林	小小	3年	大宮	分崎
伊良	永直	壺直	悟大	石志	垣西	小小	3年	沖福	繩岡
光松	永直	蓮直	華聖	祇海	園北	小小	4年	長崎	崎崎
有田	森中	真長	門白	大明	丘小	小小	4年	鹿兒	島崎
照玉	屋城	琥佑	磨尋	小宮	里小	小小	4年	沖繩	繩岡
豐見	山嶋	千莉	菜真	与新	那東	小小	4年	沖繩	繩岡
中尾	方上	悠栗	奈佳	大境	野川	小小	5年	長崎	分崎
川宮	地上	なず	な蓮	富岩	田山	小小	5年	山口	山口
野大	塚村	ひな	た乃	阿時	須東	小小	5年	山崎	崎崎
中松	田口	咲美	晴希	伊良	林町	小小	6年	長崎	本分
谷松	本野	咲美	花季	坂ノ	市小	小小	6年	熊大	分島
姫池	之上	朋瑞	桜七	玉久	江松	小小	6年	鹿兒	島繩
宮千	々和	音星	緒衣	佐大	賀中	中中	6年	沖山	口岡
葉木	原尾	里優	蒼生	城東	東中	中中	1年	佐佐	賀崎
中木	山永	嶺田	蒼美	佐熊	々々	中中	1年	長熊	崎本
松稻	嶺田	早彩	乃弥	北阿	須東	中中	1年	沖山	口賀
西西	田江	沙彩	乃弥	唐城	東中	中中	2年	佐佐	賀賀
溝有	田野	咲莉	菜子	城熊	北中	中中	2年	熊本	本本
下春	野武	翠実	侑垂	八宮	代中	中中	2年	熊宮	崎口
中重	安島	紅湊	太心	山口	教大	学園	2年	山福	口岡
津西	久保	真蓮	華美	八城	北中	中中	3年	佐長	賀崎
真森	野山	奈紘	花音	福杵	星中	中中	3年	大沖	分繩
神原	里木	紘芙	慈子	南府	府中	中中	3年	山山	口岡
樹古	賀田	愛夏	乃香	和太	宰府	高	1年	山福	岡岡
半本	岡岡	夏夏	鈴鈴	太宰	府高	高	1年	山福	岡岡

* 努力校賞 *

《福岡県》

粕屋町立 仲原小学校
志免町立 志免西小学校
志免町立 志免中央小学校
大川市立 大川桐薫中学校
福岡県立 太宰府高等学校

《宮崎県》

小林市立 南小学校
都城市立 大王小学校
門川町立 草川小学校
小林市立 須木小学校
都城市立 五十市中学校

《佐賀県》

佐賀市立 兵庫小学校
嬉野市立 吉田小学校
佐賀市立 鍋島中学校
佐賀市立 城北中学校
佐賀女子高等学校

《鹿児島県》

鹿児島市立 武岡小学校
鹿児島市立 名山小学校
出水市立 東出水小学校
霧島市立 高千穂小学校
志学館中等部

《長崎県》

佐世保市立 祇園小学校
島原市立 湯江小学校
佐世保市立 大野中学校
佐々町立 佐々中学校
長崎県立 諫早商業高等学校

《沖縄県》

東村立 高江小学校
八重瀬町立 白川小学校
沖縄県立 名護特別支援学校中学部
沖縄県立 真和志高等学校
沖縄県立 知念高等学校

《熊本県》

宇城市立 不知火小学校
合志市立 西合志東小学校
美里町立 中央中学校
菊陽町立 武蔵ヶ丘中学校
熊本信愛女学院高等学校

《山口県》

平生町立 佐賀小学校
山口市立 阿知須小学校
下関市立 向山小学校
田布施町立 田布施中学校
徳山工業高等専門学校

《大分県》

豊後大野市立 犬飼小学校
別府市立 山の手小学校
杵築市立 杵築中学校
大分県立 大分豊府高等学校
大分県立 芸術緑丘高等学校

指導にあたって (先生より一言)

小林市立南小学校 1年担任 斉藤 寿子

指定図書1冊と自由図書3冊を読み聞かせ、その中から自分が書きたい本を選んで取り組ませた。選んだ本でグループを作り、おもしろかったところや心に残ったところを出し合う時間を設け、自分が絵に描きたい場面のイメージを広げさせた。

指定図書「アマガエルのうた」では、くじらと冒険(旅)をしている場面を描いた子が多い中、想さんは一人だけ「みんなとはちがう場面を描きたい」という強い思いがあり、また、最後にアマガエルくんの心が変わった場面に強く心を惹かれたようで、最後の虹がかかった場面を描くことに決めたようだった。題「しあわせのうた」も作品ができあがったあと、じっくりと考え決めていた。

指導にあたり、まず主人公を大きく描かせ、クレヨンでカエルらしくなくてもいいから自分だけのカエルになるように、楽しく模様を描くように声をかけた。そのあと、周りに必要なものや背景を描かせ、絵の具で色付けをしていく手順で描かせていった。想さんの絵は、カエルの表情をととても上手に捉え、色づかいも楽しい気持ちをもせて表現できている作品だと感じた。

熊本市立池田小学校 4年担任 福丸 恭大

この度、本校4年生の中村仁映さんが最優秀賞を受賞することができたこと、大変嬉しく思います。この作品は、夏休みの課題として制作したもので、仁映さんが時間をかけ、試行錯誤しながら取り組んだ努力の成果です。制作過程では、仁映さん自身が「何を表現したいか」「どうすればより伝えることができるか」という問いに真摯に向き合い、自分自身の感じたものを表現し、形にした結果がこのような賞の受賞につながったのだと感じています。

普段の図工の授業においては、「自分自身が描きたい、表現したいと思うこと」を子どもたち一人一人が大切にできるように心がけています。また、作品を通して個性や感性を尊重しながら、自由に発想をできる学習環境づくりを意識し、指導に努めています。

普段から仁映さんは、物事にじっくりと向き合い、最後までやり遂げようとする姿勢が見られます。図工の学習では、アイデアを形にする喜びや、失敗から学ぶことの大切さを伝える中で、仁映さん自身も日々新たな挑戦に取り組んでいます。製作中には、細部に自分なりの工夫を凝らすなど、自分の個性を大切に表現力が大きく伸びてきました。授業の中で培ってきた豊かな発想力を生かし、自分らしい表現を追求しながら、粘り強く取り組んだことが今回の作品にも表れていると感じます。

今回の受賞を通して、図工という教科がもつ可能性や、子どもたちの想像力の素晴らしさを改めて実感しました。今回の成果を励みに、これからも自分のアイデアを大切にしながら、楽しく作品作りに向き合っていってほしいと思います。

大分大学教育学部附属小学校 5年担任 丸小野 聡暢

子供たちが図画工作科の中で表現をしていくとき、多くの場合教師からテーマを与えられます。今回の読書感想画のスタートも同じです。ただ、授業で大切なことは、子供がテーマを自分のこととして引き受け主題をつかむことです。主題をつかめば「このように表してみたい」「あのように表すにはどうしようかな」などと自然に試行錯誤しながら工夫していきます。作品は活動の集大成ですからもちろん大切ですが、それと同じくらい学習過程が大切です。読書感想画を描くにあたって、子供たちは読み聞かせで、一人一人の心の中に感動や感情とともにイメージが生まれます。私はその子供の声を引き出し、子供が自分の思いを色や形に託しながら新しく意味や価値をつくり出すことを大切にしています。そのために「どう思う?」「何色がいいと思う?」「どんな青色?」「どんな描き方をする?」など発問を繰り返したり作品づくりの途中で相互鑑賞をさせたりし、形や色を捉えたりイメージ膨らませたりしながら表現の幅を広げていきます。高学年になると心の中に豊かなものがあるてもどのように表現していいのかわからずに絵を描くことが面白くなる子供が多くなります。これは図画工作科の課題の一つであると考えています。感性や創造性を大切にするために、子供に技法を教えるはいけないという暗黙の了解が美術の伝統としてあります。小学校では、子供の感性を大切にしながらも指導すべきことは教え、技法を習得することで子供が自分の世界を絵に表す面白さを実感できるようにすること

が、図画工作科の中で子供たちを大切に育てることにつながっていくと考えています。この授業で、一人の児童が「先生、5年生になって初めて絵を描くことが楽しいと思った」と声を掛けられたときは、素直にこちらも嬉しかったです。一人でも図画工作科を楽しんでいると感じながら資質・能力を伸ばしていける授業を行っていきたいです。

佐賀市立城北中学校 教諭 高野 寿隆

読書感想画（美術・図工教育一般）の指導について、普段から留意していること。

読書感想画の指導。

- ・ 今までに読んだ中で思いの深い本か、指定図書でいいなと思った本について、最初にエスキースを数点描かせます。
- ・ 感想画は、挿絵や、解説ではない。思ったことや感じたことを絵にしていこうと伝えたい。
- ・ 登場する人物や、場面をそのまま描くこともあるのですが、推奨しません。
- ・ スケッチは見たまま描こうとするかもしれませんが、テーマは、あったほうがいいです。感想画ならなおさらです。自画像か純粋芸術科かといった感じです。
- ・ 同じ絵は2枚あってはいけません。自分を探していきましょう。自分探しの旅です。
- ・ 視点に気をつけて構成することは大切です。うまくいくとずっと観ていられます。
- ・ 読書感想画は思いを形に具現化する又は、抽出して構成する。創作する。作家の作品に近いので楽しくもあり難しくもあります。

一般指導

- ・ 同じ絵は2枚とありません。絵画はほとんど自画像と言えます。
- ・ 絵には、見て描く、思い出して描く、想像して描く、構成して描くなど指導している。
- ・ 特にスケッチ制作で基本を習得します。いいなと思った場所に行く。圧縮、広角、見下ろす、見上げる。自分が心地よい又は表現したい構図をきめる。足元からかなたまでが基本なら、浅い壁のような奥行きもあります。
- ・ 立体などの構図は、思いつきや、組み合わせ、足し算引き算などある。
- ・ 基本や定石知見を深めることは、アンチテーゼにより芸術を生み出す可能性が高いかもしれない。基本は、技能、画力。既成概念と反することで新しい発想となることが多々ある。

などを発達段階に沿った参考作品と、そうでない作品。同級生、先輩、先生、作家、巨匠、できるだけ多く紹介して、生徒それぞれが自分に合った見方考え方を育てていく。

沖縄県立真和志高等学校 教諭 玉那覇 由香利

本生徒は非常に制作意欲が高く、全ての作品制作において真摯な態度で向き合う。また、平面作品だけではなく立体作品においても優れた感覚をもっている。

本作品は、授業の課題として約1ヶ月かけて取り組んだ。自由図書ということもあり、本人は早い段階で印象深かった「蜘蛛の糸」で感想画を描くことを決めていたようである。本生徒は日頃からペンを用いて線画を描いており、画風を確立させている。それが今回の感想画の表現として成功したのだと思う。

指導に際しての留意事項として、必要最低限の説明のみを行うようにしている。自由図書であること、該当する本の種類、著作権侵害にあたらないようにすること、着彩方法は自由であること等である。指導者が多くの助言をしてしまうと、生徒の個性や主体性が損なわれてしまうと考えているからである。

本生徒への指導や助言に関しては、着彩方法が主だった。先行してペンで線画を描いていたので、線が薄くならないよう水彩での着彩を勧めた点と、全体のバランスを見ながら密度を高めた方がよいという二点である。そのアドバイスに真摯に耳を傾け、主体的に試行錯誤しながら納得するまで粘り強く制作に取り組む姿勢が見られた。

西日本読書感想画コンクールとは

西日本読書感想画コンクールは、九州・山口各県学校図書館協議会と西日本新聞社が、地域の小・中学生、高校生を対象に開催している絵画コンクールです。このコンクールは1957(昭和32)年から続いており、全国でも最長の歴史と、地方での開催としては最大の規模(2024年度の応募総数は約30万点)を誇り、各所から高い評価をいただいております。

読書感想画は、子どもたちが本を読んで感じたこと、考えたこと、心に浮かんだイメージなどを、自分の心の中で組み立て、絵というかたちで表現するものです。読書感想画を通じて、読書への意欲が高まり、豊かな感性や想像力を育む児童・生徒が一人でも増えることを願って、本コンクールを実施しています。



コンクール概要

応募資格

九州・山口各県の小学校、中学校、高校の児童、生徒(全日制、定時制、通信制問わない)。

課題

- ① 指定図書の一部
各学年別に主催者が指定した図書に対する読書感想画。高校生の指定図書はありません。
- ② 自由図書の部
文学、自然科学、人文科学などその種類は問いません(ただし教科書、図鑑、辞典、雑誌、マンガ、写真集およびそれに準ずるものは不可)。日本国内で出版されている本に限ります。電子書籍・WEB上の作品は対象外です。なお、該当学年以外の指定図書は、自由図書の部で応募できます。

用紙・絵の具および大きさ

- ① 用紙画用紙、ケント紙、キャンバスボード(枠張りは不可)、マニラボール紙、ゴッホ紙など自由。
- ② 絵の具クレヨン、パステル、水彩、油絵の具など自由。版画、貼り絵なども可。
- ③ 大きさ四つ切り(54cm×38cm)。1cm程度の誤差は可。それ以上は不可。規格未満のものは、必ずこの大きさの白画用紙を台紙にすること。規格に合わないものは失格になります。

注意事項

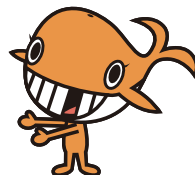
- ① 応募作品ごとに次の2項目を必ず守ってください。
 - A. 応募作品は所定の応募票に必要事項を記入し、絵の上下(天地)に合わせて作品の裏面右上にのり付けしてください。
 - B. 読んだ本のどんな点に感動したか、作画の動機または作画に当たって工夫、苦心したことなどを原稿用紙200字程度にまとめて作品の裏面に貼ってください。なお、同じ形式のものであれば、既存のものをご使用いただいても構いません。
- ② 上記の項目に合わないものは失格となります。
- ③ 応募作品は未発表の作品に限ります。著作権は主催者側に帰属し、作品は返却しません。
- ④ コンピューターグラフィックス(CG)の作品は不可とします。



詳しくは
西日本読書感想画コンクールの
HPへ



Xでもコンクールに
関する情報を
発信しています





西日本新聞社

〒810-8721 福岡市中央区天神1丁目4番1号

